

## 数学 1 A ( 佐々 ) 試験問題 ( 2008.3.3 )

1 . 次の間に答えよ。

- ( 1 )  $\frac{dy}{dx} = x(y^2 - 1)$  の一般解を求めなさい。
- ( 2 )  $\frac{dy}{dx} = \frac{x + 2y}{x}$  の一般解を求めなさい。
- ( 3 ) 線分  $C: y = x (0 \leq x \leq 1)$  に対する線積分  $\int_C xy \, ds$  の値を求めなさい
- ( 4 ) 3次元空間  $(x, y, z)$  で定義されたスカラー場:  $\phi = x^2 + y^2 + z^2$  とベクトル場:  $\mathbf{A} = (x + y - z, -x + y + z, x - y + z)$  に対し、(a)  $\text{grad}\phi$ 、(b)  $\text{div}\mathbf{A}$ 、(c)  $\text{rot}\mathbf{A}$  を求めなさい。

2 . 次の微分方程式の一般解を求めよ。

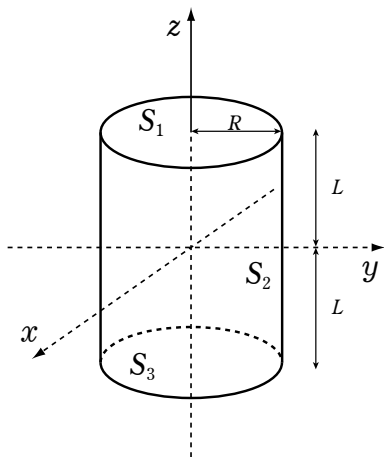
- ( 1 )  $\frac{d^2y}{dx^2} + 2\frac{dy}{dx} + y = \sin x$
- ( 2 )  $\frac{d}{dx} \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & -3 & 3 \\ 2 & -3 & 2 \\ 2 & -1 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_1 \end{pmatrix}$

3 . 下図のように、半径  $R$ 、高さ  $2L$  の円柱があり、上面、側面、下面をそれぞれ  $S_1, S_2, S_3$  とする。また、この  $S_1, S_2, S_3$  上で定義されたベクトル場  $\mathbf{A}$  を

$$\mathbf{A} = \frac{\mathbf{r}}{|\mathbf{r}|^3} \quad (\mathbf{r} = (x, y, z) = (r \cos \varphi, r \sin \varphi, z), \quad |\mathbf{r}| = \sqrt{r^2 + z^2})$$

とする。以下の間に答えよ。

- ( 1 )  $S_1$  上 [ $S_1: \mathbf{r}(r, \varphi) = r \cos \varphi \mathbf{i} + r \sin \varphi \mathbf{j} + L\mathbf{k}$ ] の面積分  $Q_1 = \iint_{S_1} \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S} = \int_0^R r \, dr \int_0^{2\pi} d\varphi \frac{L}{[r^2 + L^2]^{\frac{3}{2}}}$  を求めよ。
- ( 2 ) 同様にして  $S_2$  上の面積分  $Q_2 = \iint_{S_2} \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S}$  と  $S_3$  上の面積分  $Q_3 = \iint_{S_3} \mathbf{A} \cdot d\mathbf{S}$  を求め、 $Q_1 + Q_2 + Q_3 = 4\pi$  であることを示せ。[ ヒント:  $S_2$  上で  $d\mathbf{S} = (\cos \varphi, \sin \varphi, 0) R \, d\varphi \, dz$  ]



4 . 積分汎関数  $I[y] = \int_0^1 (y'^2 + y^2) dx$  に対する停留値問題を考える  $[0 \leq x \leq 1]$ 。ここで、 $y$  に対する境界条件は  $y(0) = 1, y(1) = 0$  とする。以下の間に答えよ。

- ( 1 ) この問題に対する Euler 方程式を導き、 $y$  および  $I[y]$  の値を求めよ。
- ( 2 ) 試行関数:  $y(x) = ax^2 - (1+a)x + 1$  [ $a$  はパラメータ] を用いて、直接法から  $a$  を適当に選び  $I[y]$  の停留値の近似値を求めよ。

解答例 (略解) ...正答であるという保障はありません

1 (1)  $y = -\frac{Ce^{x^2} + 1}{Ce^{x^2} - 1}$  ( $C$  は積分定数)

(2)  $y = Cx^2 - x$  ( $C$  は積分定数)

(3)  $\frac{\sqrt{2}}{3}$

(4) (a)  $2(xi + yj + zk) = (2x, 2y, 2z)$

(b) 3

(c)  $-2(i + j + k) = (-2, -2, -2)$

2 (1) 特性方程式の解が  $-1$  (重解) だから、斉次の解は  $y = C_1e^{-x} + C_2xe^{-x}$  ( $C_1, C_2$  は積分定数)。

特殊解を未定係数法で決めて、一般解は  $y = C_1e^{-x} + C_2xe^{-x} - \frac{1}{2}\cos x$

(2) 行列  $A = \begin{pmatrix} 1 & -3 & 3 \\ 2 & -3 & 2 \\ 2 & -1 & 0 \end{pmatrix}$  の固有値は、 $(\lambda_1, \lambda_2, \lambda_3) = (-2, -1, 1)$  であり、固有値それ

ぞれに対する固有ベクトルは順に  ${}^t(1, 0, -1), {}^t(0, 1, -1), {}^t(1, 1, 1)$

よって、 $\begin{pmatrix} y_1 \\ y_2 \\ y_3 \end{pmatrix} = C_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} e^{-2x} + C_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} e^{-x} + C_3 \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} e^x$

( $C_i$  は積分定数)

3 (1)  $Q_1 = 2\pi L \int_0^R \frac{r}{(r^2 + L^2)^{\frac{3}{2}}} dr = 2\pi L \left[ -\frac{1}{(r^2 + L^2)^{\frac{1}{2}}} \right]_0^R = 2\pi - \frac{2\pi L}{\sqrt{R^2 + L^2}}$

(2) ヒントより、 $Q_2 = \int_0^{2\pi} d\varphi \int_{-L}^L \frac{R^2}{(R^2 + z^2)^{\frac{3}{2}}} dz$  ここで、 $z = R \tan \theta$  と置換すると  $\tan \theta = \frac{z}{R}$  を満たす  $\theta$  を  $\alpha$  ( $0 \leq \alpha \leq \frac{\pi}{2}$ ) として、

$$Q_2 = \dots = 2\pi \int_{-\alpha}^{\alpha} \cos \theta d\theta = \frac{4\pi L}{\sqrt{R^2 + L^2}}$$

また  $Q_3 = Q_1$  なので、 $Q_1 + Q_2 + Q_3 = 4\pi$

4 (1)  $f = y^2 + y^2$  とすると、この問題の Euler 方程式は

$$\frac{\partial f}{\partial y} - \frac{d}{dx} \left( \frac{\partial f}{\partial y'} \right) = 0 \Leftrightarrow y'' = y$$

となる。この Euler 方程式の一般解は、 $y = C_1e^x + C_2e^{-x}$  であり、境界条件より  $y = -\frac{1}{e^2 - 1}e^x + \frac{e^2}{e^2 - 1}e^{-x}$  となる。このとき、 $I[y] = \frac{e^2 + 1}{e^2 - 1}$  ( $\sim 1.313035..$ )

(2) 試行関数を使うと、 $I(a) = \frac{11a^2 - 5a + 40}{30}$  となる。

$\frac{dI}{da} = 0$  を解いて、 $a = \frac{5}{22}$ 。このとき、 $I = \frac{347}{264} \sim 1.314$